

名古屋学芸大学 大学院

栄養科学研究科

(栄養科学専攻 博士後期課程)

研究科案内

(2027 年度)

名古屋学芸大学

## 教育研究上の理念と目的

現在、食と健康を取り巻く状況は、過食と運動不足による肥満、偏食による栄養障害、不適切な瘦身願望や摂食障害など、様々な問題が山積しています。

また、糖尿病、脂質異常症、高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患、等の生活習慣病は栄養・食生活と深く関連しており、傷病者に対しては、病院、介護老人保険施設、クリニック、健診センター、社会福祉施設等において、また健常者に対しては、市町村の保健センター及び保健所あるいは企業等において、疾病予防や治療を目的とした栄養指導を行う必要性が高く、栄養・食生活全般に加えて予防医学や臨床医学に関する専門知識と技能を身に付けた人材の育成が不可欠となっています。

さらに、少子高齢化が世界に類を見ない速さで進行している中、今までの知識では対応しきれない「食と健康」に関する深刻な問題が出現してきています。

高齢者の栄養問題は、サルコペニア、フレイルといった高齢者の生活自立度（ADL）を障害し、要介護に直結する病態に関与しています。また、認知症患者の栄養障害や嚥下機能低下による誤嚥性肺炎など、高齢者の健康寿命延伸を阻害する様々な問題に対応する必要があります。また、若年女性の過度な瘦身願望や拒食・過食といったようなメンタルな要因による疾病など、現代人の「食行動」全般に関する多様な問題が発生しています。更に、近年のわが国の食をめぐる状況の変化に伴う様々な問題に対処していくために、乳幼児から学齢期の児童に対しての「食育」の必要性が求められています。その他、食物アレルギー、食の安全性に関わる諸問題など、従来からの単に過食、栄養摂取のバランスの悪さなどの問題に加えて、食摂取に関する多くの問題が起きています。

それらの複雑で多様な課題にも対処できる総合力を有した専門的人材養成が喫緊の課題であり、その社会的必要性は極めて高いと考えます。

## 人材養成の目的と各ポリシー

（人材養成の目的）

栄養科学の実践を重んじ、オリジナリティが高く、かつ国際レベルの研究が遂行でき、さらに栄養科学における高度な専門知識と技能を備えた栄養科学領域の研究者・教育者および栄養分野の専門職業人に対する指導者たるべき人材の育成を目指す。

（ディプロマポリシー）

本研究科においては、次のような到達目標を掲げ、その能力を身に付け、博士論文の審査と最終試験に合格した者に博士（栄養科学）の学位を授与する。

- ・ 栄養科学の分野で独創的な研究、教育及び社会貢献が実践でき、かつ国際化に対応できる高度専門職業人としての知識・技能を有している。
- ・ 独立した研究者として研究を遂行するとともに、栄養分野の専門職業人に対して教育・指導できる能力を有している。

（カリキュラムポリシー）

博士特別研究を通して、博士前期課程の研究を発展させ、栄養科学領域の研究者・教育者、あるいは栄養分野の専門職業人の指導者になるために必要な研究手法及び教育手法を習得する。

（アドミッションポリシー）

栄養科学領域の研究者と管理栄養士の指導者養成目的から、次のような学生を求める。

- ・ 専門知識と研究能力をさらに発展させ、栄養科学領域のリーダーになろうとする意欲の高い人

## 教育課程の編成の考え方と特色

博士後期課程では、教員各々が専門とする分野、例えば医療の場での栄養指導や予防医療の場での健康づくりのための栄養評価・判定、生活習慣病によってもたらされる慢性疾患の予防及び治療のための栄養補給・管理のあり方、あるいはスポーツ栄養の場では運動負荷と健康増進・体力向上のための栄養補給の適・不適の診断とその対応や加齢に伴う機能変化や生活環境と栄養の関連など、栄養アセスメントも踏まえ、栄養効果と生体機能の関連等について応用的教育・研究

を展開します。

また、予防栄養学として疾病の一次予防・二次予防の観点から、個人並びに集団に対応した人の生活を運動、栄養、休養面からみて、健康維持増進に対する包括的な対応方法をより深く研究していきます。なかでもメタボリック・シンドロームの保健指導の方法については、積極的に栄養学的介入を行い、エビデンスを構築し、質の高い栄養指導法の確立を目指します。

健康栄養学はその背景にあるヒトと食物の根本的な関係をヒトの側に視点をおいて考察し、栄養必要量の算定、栄養状態の評価法、食物摂取の調節について研究し、最適な栄養状態についての理論的なエビデンスの構築を行います。

食生態学については、環境やライフスタイルとの関連を重視して、人々の食の在り方を捉える視野・視点で健康教育学の理論を踏まえ、栄養教育を展開するための方略を研究します。

高齢者の福祉・介護については、他の世代と異なった様々な特有な問題及び社会福祉制度との関わりが密接であることに鑑みて、地域に密着した在宅医療の場での栄養療法の在り方、有用性について研究を展開します。

さらに積極的に企業と連携して食品機能と栄養学的アプローチを科学的に分析し、低アレルゲン食品、機能性食品、遺伝子組み換え食品の開発等、産学協同についても視野に入れ社会に貢献できる研究を推進することとします。

なお、博士後期課程における博士特別研究では、研究指導教員のもと、学生それぞれが専攻する研究テーマを中心に博士課程の最終成果となる研究論文作成の指導等を中心に進めます。

#### 修了要件

博士後期課程に3年以上在学し、8単位を修得し、かつ、必要な論文指導を受けた上、本大学院が行う博士論文の審査及び最終試験に合格した者。

#### 開講科目

( )は単位数

博士特別研究(8)

#### 授与学位

博士(栄養科学)      Ph.D. (Nutritional Sciences)

## 教 員

- 杉浦康夫 学長・教授《医師・医学博士》
  - ・ 専門：神経解剖学・疼痛学
  - ・ 研究テーマ：痛みの機能形態学的研究
  - ・ 略歴：名古屋大学大学院医学研究科 博士課程 満了  
福島県立医科大学 教授  
名古屋大学 教授  
名古屋大学医学部長・医学系研究科長  
名古屋大学副総長  
愛知県心身障害者コロニー 総長  
瑞宝中綬章受章
  
- 北川元二 研究科長・教授《医師・医学博士》
  - ・ 専門：内科学、消化器病学、糖尿病学
  - ・ 研究テーマ：肥満に伴う合併症の病態の解明、栄養調査  
大学生の健康・栄養調査、やせ願望の社会心理学的調査  
糖尿病患者の体組成
  - ・ 略歴：名古屋大学医学部卒業  
名城病院内科医師  
名古屋大学部附属病院第2内科  
米国ミシガン大学生理学教室  
厚生労働省東海北陸厚生局臨床研修審査官  
日本消化器病学会専門医、日本内科学会認定内科医、  
日本消化器内視鏡学会専門医、日本医師会認定産業医
  
- 安達内美子 教授《管理栄養士・博士（栄養科学）》
  - ・ 専門：食生態学、栄養教育学
  - ・ 研究テーマ：一食の適量把握に関する研究、  
持続可能で健康な食事に関する食生態学的研究、  
食事の楽しさに関する食生態学的研究、  
共食に関する食生態学的研究  
食育教材開発に関する研究
  - ・ 略歴：徳島大学医学部栄養学科卒業  
女子栄養大学大学院栄養学研究科修士課程修了  
名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士後期課程修了  
名古屋市教育委員会  
名古屋市健康福祉局  
名古屋市守山区役所  
日本栄養・食糧学会会員、日本栄養改善学会会員(評議員)、  
日本公衆衛生学会会員、東海公衆衛生学会会員  
日本健康教育学会会員、日本学校保健学会会員、  
日本国際保健医療学会会員、日本生活学会会員、  
日本フードシステム学会会員、日本栄養学教育学会会員、  
日本食育学会会員、日本教育工学会会員、日本 LCA 学会会員  
米国栄養教育行動学会 (SNEB) 会員  
NPO 法人食生態学実践フォーラム理事

- 池田彩子 教授《博士（農学）》
  - ・ 専門：栄養生化学 食品栄養学
  - ・ 研究テーマ：ビタミンの体内動態と生理作用に関する研究
  - ・ 略歴：名古屋大学大学院生命農学研究科博士後期課程満期退学  
 （学位：博士（農学） 名古屋大学）  
 日本学術会議 第25・26期連携会員  
 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 学位審査会委員  
 愛知県教育委員会 産業教育審議会委員  
 British Journal of Nutrition, First Editor  
 公益社団法人ビタミン学会理事
  
- 井澤一郎 教授《医師・博士（医学）》
  - ・ 専門：分子医学、生化学、細胞生物学、脳神経外科学
  - ・ 研究テーマ：細胞内情報伝達経路の解明、細胞極性制御機構の解明、  
 脳腫瘍の病態解明と治療への応用
  - ・ 略歴：神戸大学医学部卒業  
 神戸大学医学部脳神経外科研修医  
 愛知県がんセンター研究所室長  
 日本癌学会会員、日本細胞生物学会会員、日本脳神経外科学会会員、  
 日本栄養改善学会会員、米国癌学会（AACR）会員
  
- 和泉秀彦 教授《博士（農学）》
  - ・ 専門：食品科学・食品機能学
  - ・ 研究テーマ：食物アレルギーに関する研究
  - ・ 略歴：名古屋大学大学院農学研究科（博士課程後期）満期退学  
 日本調理科学会理事・代議員、日本調理科学会東海・北陸支部支部長、  
 日本栄養・食糧学会中部支部支部長・参与、  
 日本家政学会代議員  
 日本食品科学工学中部支部役員  
 日本農芸化学会会員、日本栄養改善学会会員、  
 日本小児アレルギー学会会員、日本アレルギー学会会員、  
 全国栄養士養成施設協会常任理事  
 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク理事
  
- 大野欽司 教授《医師・医学博士》
  - ・ 専門：データサイエンス、分子生物学、人類遺伝学、神経内科学
  - ・ 研究テーマ：バイオメディカルデータサイエンス  
 神経筋接合部分子病態機構  
 パーキンソン病の腸脳相関  
 分子状水素の作用機構  
 超低周波変動微弱磁場の量子作用機構
  - ・ 略歴：名古屋大学医学部医学科卒  
 名古屋医療センター神経内科医師  
 名古屋大学大学院医学系研究科博士課程修了  
 日本学術振興会特別研究員 PD  
 米国メイヨクリニックポスドク  
 米国メイヨ医科大学助教  
 名古屋大学大学院医学系研究科教授  
 名古屋大学大学院医学系研究科副研究科長  
 名古屋大学副総長

日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本筋学会副理事長、  
日本神経化学会評議員、日本分子状水素医学生物学会理事

- 岡田希和子 教授《管理栄養士・博士（医学）》
  - ・ 専門：高齢者栄養
  - ・ 研究テーマ：高齢者の栄養状態と咀嚼力の関連  
サルコペニア・フレイルと栄養
  - ・ 略歴：徳島大学医学部栄養学科卒業  
徳島大学大学院栄養学研究科博士前期課程修了  
名古屋大学大学院医学系研究科健康増進医学専攻博士課程修了  
日本老年医学会会員、日本サルコペニア・フレイル学会評議員、  
日本臨床栄養学会会員、日本栄養改善学会評議員  
日本臨床栄養代謝学会会員、日本調理科学会会員
- 岸本 満 教授《博士（農学）》
  - ・ 専門：食品衛生微生物、食品安全マネジメントシステム（FSMS）
  - ・ 研究テーマ：食中毒菌の生態とリスク評価  
食環境の微生物二次汚染の実態  
食品安全マネジメントシステム（FSMS）の構築支援
  - ・ 略歴：岐阜大学農学部農芸化学科卒業  
岐阜大学大学院連合農学研究科修了  
HACCP Instructor  
日本防菌防黴学会 評議員  
日本防菌防黴学会 微生物制御システム研究部会 部長  
環境管理技術誌編集委員
- 小林美里 教授《博士（農学）》
  - ・ 専門：栄養生化学
  - ・ 研究テーマ：生活習慣病の発症に関わる食事および遺伝要因に関する研究  
脂質異常症モデルマウスにおけるビタミンEの体内動態に関する研究
  - ・ 略歴：名古屋大学大学院生命農学研究科博士後期課程修了  
日本学術振興会特別研究員(PD)  
名古屋大学大学院生命農学研究科 助教、講師  
日本栄養・食糧学会（参与）、日本農芸化学会会員、日本ビタミン学会会員
- 塚原丘美 教授《管理栄養士・博士（医学）》
  - ・ 専門：臨床栄養学
  - ・ 研究テーマ：在宅高齢者を対象とした栄養管理モデルの構築  
随時尿 Na/K 比による食塩摂取量推定システムの構築  
インスリン分泌能と食習慣の関連
  - ・ 略歴：徳島大学医学部栄養学科卒業  
徳島大学大学院栄養学研究科博士前期課程修了  
山口大学医学部附属病院栄養管理室 管理栄養士  
名古屋大学大学院医学系研究科分子総合医学専攻博士課程修了  
日本栄養改善学会理事長、日本栄養学教育学会理事、日本未病学会理事  
日本臨床栄養学会会員、日本病態栄養学会会員、日本糖尿病学会会員

- 早戸亮太郎 教授《博士（情報工学）》
  - ・ 専門：温熱生理学、感覚生理学
  - ・ 研究テーマ：褐色脂肪細胞における熱産生機構の解明
  - ・ 略歴：九州工業大学情報工学部卒業  
九州工業大学生命体工学研究科博士前期課程修了  
九州工業大学生命体工学研究科博士後期課程単位取得満期退学  
日本生理学会会員、日本肥満学会会員  
生理学エデュケーター(日本生理学会認定)  
全国栄養士養成施設協会 栄養士実力認定試験 総務委員 (解剖生理学)
- 藤木理代 教授《管理栄養士・博士（医学）》
  - ・ 専門：応用栄養学
  - ・ 研究テーマ：「Nutrigenomics（栄養遺伝子学）」  
「肥満関連遺伝子の解析と栄養ケアへの活用」  
「嚢胞性線維症患者の栄養ケア」
  - ・ 略歴：東京家政大学家政学部栄養学科卒業  
筑波大学大学院体育研究科健康教育学専攻修士課程修了  
名古屋大学大学院医学系研究科健康増進医学専攻博士課程修了  
自然科学研究機構生理学研究所特別研究員  
ハーバード大学医学部 MGH 消化器科ポスドク研究員
- 山田千佳子 教授《博士（健康科学）》
  - ・ 専門：食品科学、食品機能学
  - ・ 研究テーマ：食物アレルギーの加工による変化の解明  
食物アレルギーに対して予防および改善効果を持つ機能性食品の探索
  - ・ 略歴：名古屋大学大学院生命農学研究科博士前期課程修了  
川崎医療福祉大学医療技術学研究科健康科学専攻博士課程修了  
日本栄養・食糧学会会員、日本農芸化学学会会員、日本調理科学学会会員、  
日本食品科学工学会会員
- 榎村春江 准教授《管理栄養士・博士(栄養科学)》
  - ・ 専門：応用栄養学、臨床栄養学
  - ・ 研究テーマ：食物アレルギー児への栄養食事指導  
食物除去解除指導の開発  
牛乳アレルギー児の骨密度調査  
アレルギー児への食教育  
食物アレルギー児への給食対応と実態に関する研究  
食物除去解除後の食生活の実態に関する研究  
食物アレルギー患者の成長発育に関する研究
  - ・ 略歴：名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士後期課程修了  
小児アレルギーエデュケーター  
日本栄養改善学会会員  
日本小児アレルギー学会会員  
日本小児臨床アレルギー疾患学会会員  
日本食育学会会員

- 立花詠子 准教授《管理栄養士・博士（食品栄養科学）》
  - ・ 専門：臨床栄養学
  - ・ 研究テーマ：小児の高血糖と生活習慣との関連について
  - ・ 略歴：徳島大学医学部栄養学科卒業  
静岡県立大学大学院博士前期課程修了  
日本栄養改善学会評議員、日本栄養治療学会会員  
日本病態栄養学会会員
- 日暮陽子 准教授《博士（医学）》
  - ・ 専門：細胞生理学・栄養生理学
  - ・ 研究テーマ：細胞内カルシウム動態、  
味覚に関する研究
  - ・ 略歴：九州工業大学情報工学部生物化学システム工学科卒業  
九州工業大学大学院情報工学研究科情報科学専攻博士前期課程修了  
日本生理学会会員、日本微量元素学会会員
- 伊藤勇貴 講師《管理栄養士・博士（栄養科学）》
  - ・ 専門：公衆衛生学、栄養疫学、健康管理学
  - ・ 研究テーマ：介護予防事業の実施効果に関する研究  
口腔機能と栄養状態に関する研究  
保健機能食品の利用実態と安全性に関する研究
  - ・ 略歴：名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士後期課程修了  
栄養教諭専修免許状、上級健康食品管理士／食の安全管理士（上級）、  
日本栄養改善学会評議員、日本口腔ケア学会評議員、日本食品安全協会幹事
- 宇野千晴 講師《管理栄養士・博士（栄養科学）》
  - ・ 専門：高齢者の栄養ケア、高齢者の栄養問題
  - ・ 研究テーマ：高齢期の栄養管理に関する研究
  - ・ 略歴：名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士後期課程修了  
介護老人保健施設、病院勤務（管理栄養士）  
名古屋大学未来社会創造機構／大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学 特任助教  
＜所有資格＞  
摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士、健康運動指導士、介護支援専門員、  
栄養治療専門療法士（腎疾患専門療法士）、他  
＜所属学会＞  
日本栄養改善学会（評議員）、日本在宅栄養管理学会（評議員）  
日本リハビリテーション栄養学会（理事、代議員）、日本腎臓リハビリテーション学会（代議員）、  
日本臨床栄養代謝学会、日本栄養治療学会会員（評議員）、日本老年医学会会員、他
- 松下英二 講師《管理栄養士・博士(医学)》
  - ・ 専門：老年医学、栄養疫学
  - ・ 研究テーマ：健常高齢者の長期縦断疫学研究  
インターネットを利用した疫学研究  
食事以外から栄養素摂取量を推定する食事推定式の開発
  - ・ 略歴：名古屋学芸大学管理栄養学部管理栄養学科 卒業  
名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科修士課程 修了  
名古屋大学大学院医学系研究科医学博士課程 修了  
愛知県栄養士会会員、日本口腔ケア学会会員、  
日本老年医学会会員、日本サルコペニア・フレイル学会会員、日本栄養改善学会会員

- 内藤宙大 助教《管理栄養士・博士（栄養科学）》
  - ・ 専門：食品科学
  - ・ 研究テーマ：食物アレルギーに関する研究
  - ・ 略歴：名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士後期課程修了  
日本調理科学会会員、日本食品科学工学会会員、  
日本栄養・食糧学会会員、日本栄養改善学会会員  
日本小児アレルギー学会会員、日本アレルギー学会会員

【注】教員の構成並びに略歴等は2026年4月現在のものです。

## 授業概要

### 博士特別研究

研究課題を決定して、課題遂行のための計画を立案、その研究成果を以下の教員による個別の研究指導等を通じて、博士学位論文に纏め上げるための科目として位置づけている。

具体的には、各教員の指導のもと、研究課題の設定、研究計画の立案、データ収集、データ分析、データ実験、研究方法の展開等を行う。

また、専門分野の最新の研究成果が掲載された学術論文の精読を通じて、自らの研究内容との比較検討も行う。

これらにより、学生個々の専門領域に関する高度な知識を深めると共に、研究者、教育者及び高度専門的職業人としての資質向上に資するものとする。

## 募集要項

### 1. 募集研究科（専攻）・入学定員

研究科	専攻	課程	入学定員
栄養科学研究科	栄養科学専攻	博士後期課程	2人

### 2. 入試実施日程

入試種類	出願期間	試験日	合格発表
前期日程	8/17(月)～8/27(木)	9/12(土)	10/16(金)
後期日程	1/18(月)～1/28(木)	2/13(土)	3/5(金)

### 3. 受験資格

次の各項のいずれかに該当する者または2027年3月31日までに該当見込みの者

- ① 修士の学位や専門職学位を有する者 (法第102条第1項)
- ② 外国において、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者 (施行規則第156条第1号)
- ③ 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者 (施行規則第156条第2号)
- ④ 我が国において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学（大学院相当）日本校）を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者 (施行規則第156条第3号)
- ⑤ 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者（施行規則第156条第4号）
- ⑥ 大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院において、修士の学位を有する者と同等の学力があると認められた者 (平成元年文部省告示第118号)
- ⑦ 大学院において個別の入学資格審査により認めた24歳以上の者 (施行規則第156条第7号)

法：学校教育法 施行規則：学校教育法施行規則

- ※ 受験資格⑦で出願しようとするものは、必ず定められた期日までに所定の資料を提出し、個別審査で出願の許可を受けてから出願すること。出願の許可を受けずに出願した場合は、出願を認めないので注意すること。詳しくは、事前に事務局（大学院担当）に（前期7月1日・後期12月2日まで）問い合わせること。

- ※ 外国国籍を有する者で、受験資格②、③又は④で出願しようとする者は、「公益財団法人日本国際教育支援協会」または「独立行政法人国際交流基金」が実施する「日本語能力試験（N1）」に合格した者に限る。なお、出願前に必ず事務局（大学院担当）に（前期7月1日・後期12月2日まで）問い合わせること。

#### 4. 選考方法

##### 一般入試

- (1) 書類審査（研究業績を含む）
- (2) 試験科目  
英語 60分（辞書持込可、但し電子辞書、インターネット辞書並びにそれに類すると思われる電子機器を利用した辞書は不可）
- (3) 口頭試問  
研究実績に基づく試問及び専門分野についての試問等  
合格判定は、書類、試験、口頭試問による総合判定  
※ 研究業績を示す資料を出願時提出すること。

##### 学内進学者特別選抜入試

- 出願資格 名古屋学芸大学栄養科学研究科博士前期課程を2027年3月31日までに修了見込みの者及び課程を修了した者
- (1) 書類審査（研究業績を含む）
- (2) 口頭試問  
研究実績に基づく試問及び専門分野についての試問等  
合格判定は、書類、口頭試問による総合判定  
（但し、書類審査等の能力で十分に判定できる場合においては、口頭試問を省略する場合がある。）  
※ 研究業績を示す資料を出願時提出すること。

##### 社会人特別選抜入試

- 出願資格 過去又は現在までに栄養又は保健に関連する分野に関わる職歴が3年以上を有する者。  
（入学後も職に付く者は勤務先の承諾書が必要）
- (1) 書類審査（研究業績を含む）
- (2) 口頭試問  
研究実績に基づく試問及び専門分野についての試問等  
合格判定は、書類、口頭試問による総合判定  
（但し、書類審査等の能力で十分に判定できる場合においては、口頭試問を省略する場合がある。）  
※ 研究業績を示す資料を出願時提出すること。  
※ 長期履修の適用  
社会人特別選抜入試にて合格した者については、長期履修規程に基づく履修を認める。

##### ※出願に関して

大学院の「特別研究」については、受験生が希望する研究を、指導教員の専門分野の関係上指導できない場合があるため、必ず事前に受験生が大学院で研究したい内容で研究可能か確認し、指導教員の受け入れ許可を得た上で出願をすること。許可を受けずに出願した場合は、これを認めないので注意すること。

### ※受験上の合理的配慮が必要な方へ

本学大学院の入学選抜試験において、障がいや疾病および怪我などにより受験上の合理的配慮が必要な場合、受験時に合理的配慮を提供します。合理的配慮が必要な方は、出願前にその旨大学までご連絡ください。障がい等の程度に応じた合理的配慮に向けて検討・調整を行いますが、すべてのご希望に添えるとは限りませんので予めご承知おきください。

### 納付金

(単位：円)

	1年次		2年次		3年次		計
	1期	2期	1期	2期	1期	2期	
入学金	100,000						100,000
授業料	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	2,400,000
教育充実費	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000	570,000
計	595,000	495,000	495,000	495,000	495,000	495,000	3,070,000

(但し、名古屋学芸大学出身者は、入学金を免除する。)

### 長期履修制度の適用について

栄養又は健康に関連する分野の職に就く者で、現職に関わる職歴が2年以上を経過し、入学後も現在の勤務を続けることが可能な者については、標準修業年限3年を超えて、4年間又は5年間修学することができる。(勤務先の承諾書が必要)

なお、その際長期履修期間の授業料は、標準履修期間の総額と同額とし、原則として長期履修年数で分割して納入するものとする。(但し、教育充実費については標準履修期間で学修する学生が各期に納付する金額と同額を履修全期間納入することとなっておりますのでご注意ください。)

その他詳細については、大学までお問い合わせ下さい。

(修学期間4年間の納入例)

(単位：円)

	1年次	1年次2期～4年次1期	4年次	計
	1期		2期	
入学金	100,000			100,000
授業料	400,000	285,700	285,800	2,400,000
教育充実費	95,000	95,000	95,000	760,000
計	595,000	380,700	380,800	3,260,000

(修学期間5年間の納入例)

(単位：円)

	1年次	1年次2期～5年次1期	5年次	計
	1期		2期	
入学金	100,000			100,000
授業料	400,000	222,200	222,400	2,400,000
教育充実費	95,000	95,000	95,000	950,000
計	595,000	317,200	317,400	3,450,000

**お問合せ先**

名古屋学芸大学 事務局

〒470-0196 日進市岩崎町竹ノ山 57 大学院担当 tel.0561-75-2880(直通)

E-mail: [gr-office\\_ml@nuas.ac.jp](mailto:gr-office_ml@nuas.ac.jp)

名古屋学芸大学 事務局

E-mail: [gr-office\\_ml@nuas.ac.jp](mailto:gr-office_ml@nuas.ac.jp)

〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57

TEL (0561) 75-2880 (直通電話)